

## 大石田町議会「行政調査」報告書

議 長	副議長	職	氏 名
			小玉 勇
期 間		出張先	
令和5年6月27日(火)から 令和5年6月29日(木)まで 計3日間		北海道白老郡白老町議会、夕張郡栗山町議会、夕張郡長沼町議会	
用 件			
町づくりを大石田町に活かす			
報 告 大 要			
北海道の各自治体は江戸末期から明治にかけて、自然との闘争の中残率してきただろうことは、どの自治体も殆ど変わりなく、同じように悲惨の連続だったろうと推測します。			
武田泰淳「森と湖のまつり」 本庄陸男「石狩川」 手塚治虫「シュマリ」等以前読んだ時に覚えた感覚は今でも感じます。			
3町の訪問の中で今回はワーケーションの有様を視察した長沼町について、感じたことをレポートします。			
長沼町は岩手県、水沢藩の吉川氏達36戸が開拓者として発見した町である。この歴史は辻村もと子「馬追原野」1942年に詳しい。馬追とはマオイと発音し、バラ科はまなす(はまなし)の実があるところの意味らしい。はまなすはローズヒップとしても知られている。			
1970年頃、新聞、テレビ等は長沼ナイキ訴訟についての記事にあふれていた。先ほど話した馬追の丘に地对空ナイキミサイル基地を建設することに対して、住民たちが起こした行政訴訟です。			
第一審の札幌地裁は、自衛隊を戦力と認定し、唯一の違憲判決があった。この判決を下した福島重雄裁判長は海軍兵学校～京都大学法学部を経て判事になった。			
戦争と戦力の問題は経験者としての意志も大きく作用していることと思う。			
この裁判に関連して札幌地裁所長の「平賀書簡」、最高裁石田長官の「ブルーページ」、鹿児島地裁飯守所長発言等、当時法学部の学年であった自分にはずいぶん考えることが多かった。			
ナイキ(ギリシャ神話、勝利の女神Nike ニケの英語読み)訴訟は、上級審で覆されることになるが、司法の判断にはなじまないとする統治行為論が示された。			

50年以上経過してマオイの丘には今パトリオットミサイル基地があるという。江戸～  
明治にかける自然との闘いであった開拓時代。そして昭和のナイキ問題は(住民全体  
ではないにしても)国との戦い。

北の大地の町づくりは大石田町とは比較にならない辛酸を舐めた歴史だったと思う。  
遠くまで見渡せるマオイ丘陵をながめると、自分達、大石田町もガンバルぞ！！と  
思うのである。